

独立混成第百十四旅団の概況

一 奄美群島の^(防衛)~~戦備~~強化と独立混成第三十一聯隊の派遣

奄美群島の防衛

昭和十九年初頭より

奄美要塞司令部

陸軍部隊として奄美大島に重砲兵聯隊等が配属

(海軍は奄美大島防衛隊を置く)

これによる過重かつたが、戦局の進展に伴い、昭和十九年三月二十二日、

十号作戦準備が下令され、第三十三軍(軍司令部は、昭和十九年三

月十五日福岡において編成)が北緯三十度十分以南、東経百二十

度三十分以東の南西諸島の防衛に当ることとされた。これと共

に、さしあたり

にかいて、その守備に当らしめることとなり、

独立混成聯隊一個を編成して奄美群島に派遣し、第三十三軍司令部の隷下

五月十九日、~~第~~独立混成第三十一聯隊（通称号 球クム）がその編成と

完結した。同聯隊は、昭和十九年五月二十日、編成地山口を出発、同五月

二十三日門司港発、同五月三十日に奄美大島南に着港に到着、上陸した。

その後、第一大隊を沖永良部島に派遣（六月十一日古仁屋出發、翌十二日

同聯隊から、

沖永良部島到着、同大隊から更に一中隊を鶴論島に分遣した。）し、また一中隊

と奄美大島に残置した。

聯隊主力は徳之島に前進し、~~徳之島に前進し、~~

その後、独立混成第三十一聯隊長は、奄美大島の重砲兵第六聯隊

（奄美大島重砲兵聯隊を基幹として、昭和十九年五月二十九日、編成された。）

と併せ指揮し、奄美守備隊（~~徳之島に位置し、~~）の防衛に当ることとなる。

第三十三軍司令部官直轄の

0045